

# 交牧連の活動日誌

～みんな違う みんな仲間～

## 第9回 相互理解が進む未来を目指し

# 子どもたちに正しい知識伝われば 次世代にもつながっていく

地域交流牧場全国連絡会近畿・中国・四国ブロック(香川県高松市塩江町 有藤川牧場) **藤川 修**

私は香川県の奥座敷と呼ばれる高松市塩江町の緑とダム湖に囲まれた場所で酪農を営んでいます。現在の総飼養数は31頭。スタッフ8人で牧場と牛乳やチーズなどの直売店を営んでいます。

現在49歳で、地域交流牧場全国連絡会(交牧連)には発足(1999年)の前から関わっており、交牧連の歴史と共に歩んできました。一般消費者のみならず農業大学校からの実習生なども受け入れ、酪農を深く知ってもらうことを念頭に活動してきました。酪農教育ファーム活動の一環である「わくわくモーモースクール」も近隣の学校を中心に実施しており、子どもたちと交流を図っています。

### 酪農家と消費者の間の理解の溝を埋めたい

当牧場では交牧連が発足する数年前から、6次産業化の先駆けとしてソフトクリームの製造・販売に取り組み、その後もアイスクリームやチーズなど商品ラインアップを増やしてきました。当時、牧場が乳製品の製造や販売を手がけるのは珍しく、試行錯

誤を重ねていましたが、とてもやりがいを感じていました。

その一方、牧場を訪れた消費者と話していると、驚くことがたびたびありました。生産者や、ある程度酪農に通じている人からすれば常識であることが一般的には案外知られていないのです。例えば「雄牛からも乳は搾れるのか」「牛はずっと乳を出し続ける生き物でしょう」などです。

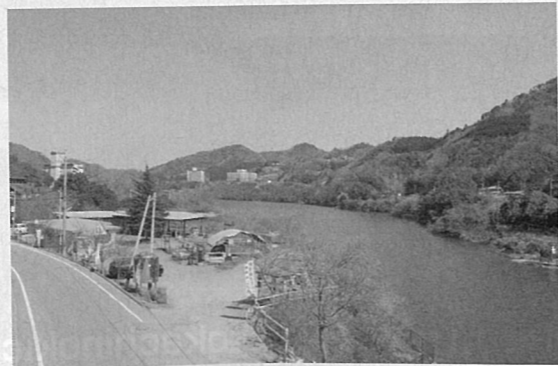
どうかこの理解の差を埋めたい、と考えていた頃に運良く交牧連が発足したのです。製品の販売をしながら消費者と交流していたとはいえ、酪農や牛乳について深く知ってもらうには根本的な部分で何か足りないと考えていた私たちにとって、交牧連という組織の誕生は大きなきっかけとなりました。

### 「何か足りない」時に誕生した酪農教育ファーム活動

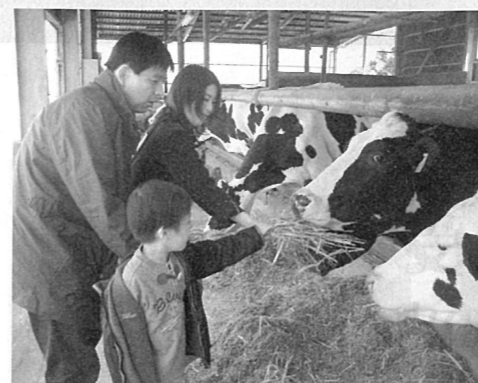
交牧連は消費者と農家が相互理解する機会をつくる役割を担ってきました。当初は大きな期待の半面、



搾乳牛30頭はフリーバーンで飼養し、ミネラル豊富な山の湧き水を牛に飲ませている



牧場はダム湖である内場池(ないばいけ)のほとりにある



地域住民を中心に多くの方が牧場体験を通じて酪農への理解を深める



敷地内で馬、羊、ヤギなども飼い、来場者の動物と触れ合う機会をつくっている

どう活動に関わればいいのか迷いもあり全てが手探りでした。しかし、活動を続けていくうちに手応えを感じ始め、より積極的に活動に参加して一定の成果を上げるようになりました。

とはいえ、理解の溝を埋めるには、何かもう一つ足りないというもどかしい状況が続きました。そんな中で始まったのが「わくわくモーモースクール」に代表される酪農教育ファーム活動です。子どもたちを牧場に招き、時には学校などにわれわれが出向いて、牛や動物たちとの交流を通して、生産者の思いと正しい酪農の知識を子どもたちの親を含めて伝えようというのが狙いです。

この活動には、酪農の未来につながる大きな意味があります。というのも酪農に対する正しい知識を体験から学んでもらえば、その子が親になった時に、自分の子どもにその知識が伝わっていくからです。そんな将来を見据えながら、地道ながらも活動を継続してきました。近年はコロナ禍で、オンラインなど活動の形も多様になっていますが、軸となる考えはぶれることなく一貫して活動できていると思います。

### 農家との情報交換きっかけに飼養管理見直したことも

交牧連の活動を通じ、酪農家同士の情報交換や知識のすり合わせなどができることも重要で、これによって農家同士の地域を超えた連携が生まれるのです。

現在はSNSなどを使って手軽に情報交換ができるようになりましたが、やはり顔を突き合わせて情報を伝え、意見を交わしたときの熱の入りは違います。特に飼養方法や牛の体調変化への対応は地域ごとの違いが顕著で、常識だと思っていたやり方が実は悪影

響を及ぼすことに気付き、飼養方法を見直したことが何度かあります。

こうした酪農家同士のつながりが生む情報交換はとても重要で、特に柔軟な思考の若い世代との交流から、いつも刺激を受けています。それも次世代の若手が

集まる「クラブ・ユース事業」(40歳以下または就農5年以下の酪農家などが対象)で、活発な意見交換と交流を行っているからでしょう。



このように実績を上げているものの、コロナ禍で消費者と直接関わるのが難しくなり、酪農教育ファーム活動をオンラインで行うなど、今まで培ってきたノウハウが通用しない場面も増えてきました。しかし、この交牧連というネットワークを最大限に活用し、酪農家と消費者の相互理解が進んだ未来を目指し、これからも日々活動していきたいと考えています。



交牧連設立当初に会員となり、消費者の理解醸成に努める藤川さん

全国の酪農家の皆さん、苦しい状況ですが手を取り合って乗り越えていきましょう!

<b>牧場概要</b> 牧場名 有藤川牧場 代表者名 藤川 修 所在地 香川県高松市塩江町上西乙585 総飼養頭数 約31頭 (うち搾乳牛15) 年間生産乳量 約100t 飼養形態 放し飼い(フリーバーン)	自給飼料畑面積 なし 牧場スタッフ 3人(本人、義姉、従業員) 交牧連加入年 1999年 主な活動 酪農教育ファーム受け入れ (約20件/年)
--	---

### 地域交流牧場全国連絡会(交牧連)に関するお問い合わせ先

(一社)中央酪農会議内交牧連中央事務局  
 TEL:03-6688-9841 FAX:03-6681-5295  
 メール:koubokuren@churaku.jp  
 ホームページ:https://www.dairy-farm.jp/  
 フェイスブック:https://www.facebook.com/koubokuren



【交牧連 HP】